

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100467		
法人名	(有)百栄		
事業所名	グループホームつぼみ		
所在地	那覇市具志2-18-12		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100467-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年 11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①月に3回の行事を計画し外出支援や誕生会、季節の行事を行っています。
②コロナワクチンやインフルエンザ予防接種など行い又、体調が悪い利用者は、家族さんへ連絡し病院受診行って健康管理に努めている。
③利用者の皆様が思い通りに過ごせるように本人の希望に出来るだけ添えられるように支援を行い又、残存機能を使い何時までも可能な限り営む事が出来るように支援しています。
④外出支援やレク活動で近所を散歩したり、近くの天ぶらやさんへ一緒に天ぶらを買って行っている。
⑤利用者の希望に沿った食事を提供している。
⑥毎日の食事は職員の手作りで(利用者が食べやすい様に軟らかくなるまで煮込んでいる)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地の住宅街に立地し、近隣住宅と果物の差入れ等良好な関係性を築いている。月に1回の外出支援や日々の散歩、誕生会等の行事企画について、利用者の意向や要望の聴取に努め、収集した情報に沿った支援を行っている。食事支援について、理念である「家族のように温かく」を実践し、職員手作りの食事を3食提供している。献立作成・買い物・調理等の一連の役割を毎月のミーティングで話し、輪番で担当してもらうことで職員間の連携を深めている。法人では「身体拘束」「虐待予防」「看取り・終末期対応」等の指針を備えている。次年度から義務化となる「業務継続計画(BCP)」についても自然災害・感染症対策の厚生労働省が示したガイドラインを活用し、研修を実施し策定へのプロセスを構築している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員一人ひとりが理念を基本に目標を達成できるように共有し合い実践につなげるように日々努めている。 ・朝のミーティングにて、理念の確認をおこなっている。 ・私達は家族という理念にもとづき自分のオジョオーバーのように寄り添う。	「みんなが家族」というキーワードを掲げた理念は、設立時に職員・代表者で策定した。理念は、リビングに掲示されており、職員は朝のミーティング時に読み合わせを行い日々の実践の基本としている。管理者は、就任1年目であるがケアマネージャーとして約8年の勤務経験がある。管理者として、理念に基づいた事業所運営に尽力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・月に3回の行事や外出支援を行っており自治会、地域の行事に参加し交流を図っていた。 ・時々、近隣の方から野菜や果物の差し入れがあり日常的に交流していた。	自治会には、未加入であるが、正月の餅つき・年末マラソン大会等の行事に参加・協力を行っている。近隣の住宅とは、事業所の庭に植えているバナナを収穫した際に届けたり、隣の住宅で収穫した果物を頂いたり、日常的な交流がある。地域に居住し自治会に加入している職員がおり、その職員を通じて交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の老人会へ参加ができなかったため、ちがう形で認知症の勉強会を予定していたがコロナ禍でできなくなり、落ち着いてから勉強会を予定していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議に家族が参加しやすい工夫と知見人の参加を目標にしたが、コロナ禍で入館困難で職員との会議となる。	コロナ禍対策で、外部者の入館制限下において、職員・利用者の参加による会議を行い議事録を作成している。議事録の配布については市と地域包括支援センターには対面・メール・郵送等を活用している。家族には郵送している。12月の会議は、外部委員の参加で対面実施を予定している。議事録郵送時の意見の聴取方法が確認できなかった。	運営推進委員からの意見の聴取について記載が確認できなかった。対面会議の早期開催と委員からの意見聴取についての工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・那覇市ちやーがんじゅう課とメールでやり取りを行っている、アドバイスを頂いている。 ・以前は買い物支援ボランティアに参加し包括とも連携がとれていた。これからも連携し協力しあえるようにしたい。コロナがおさまり次第、協力関係を築きます。	市の担当者については、メール等を活用し情報共有を行っている。運営推進会議の会議録を直接持参し、意見交換を行っている。地域包括支援センターについては、入居相談等の情報交換やボランティア依頼等協力関係を構築している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束、虐待防止についての理解に努めている。又、身体拘束については、会社取締役が権利擁護推進委員であり、会社全体として取り組んでいる。平成28年2月に管理者も推進員研修受講済み。職員も同年12月に受講済みである。身体拘束0に努めている。	運営推進会議時に、身体拘束適正化委員会の報告を記載している。身体拘束をしないケアについて理解を深めるために、会社全体で県が主催している「沖縄県権利擁護推進員研修」の受講を推進している。学んだことをミーティングや勉強会で共有している。身体拘束適正化委員会の議事録には、身体拘束の有無についての記載にとどまっている。	身体的拘束と適正化のための対策を検討する委員会の外部委員の登用と会議内容の充実が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティングを開き身体拘束について理解等に努めている、問題がある場合は会議を開き報告、相談、話し合いを行っている。 ・言葉の虐待を使わないように心がけている。 ・グループホーム協会の研修、職員参加しました。	権利擁護の研修について沖縄県認知症グループホーム協会主催研修等の外部研修を受講している。オンラインの研修を活用し最新の情報取得に努めている。研修参加者は、報告書を作成し参加できなかった職員への情報伝達を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全体会議等や勉強会を設け話し合いを行っている。 ・会社全体として成年後見制度、権利擁護等、精度についてや、窓口の確認を行い利用にむずびつく場合、すぐに動けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書については、管理者が分かりやすく説明し相談や不安等があれば、何時でも相談できるように心掛けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族や利用者の意見や要望を聞き反映出来るように努めている。 ・病院受診の連絡をメールでやり取りするときに要望や意見を確認するようにしている。	コロナ感染予防のため、外部からの面会等の制限がある中で、電話やオンラインを活用し家族の意見の聴取に努めている。病院受診時の連絡や情報共有を図り家族の要望を確認している。利用者の要望には、ドライブや外食があり、ファストフードやアイスクリーム店などにドライブシテイクアウトで購入する機会を提供している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングを行い意見を話し合う機会を設け職員からの意見を提案を話し合い、レクや外出等についてや、食事など、よりよくなるように話し合い、運営に反映させている。 ・毎日の申し送り時にも確認しあっている。 	<p>管理者は、食費を含めた毎月の運営費を本部から預かり、食事のメニューやドライブ等の行事について職員間で予算の有効な活用について話し合い実行している。空調機の故障や修繕か所については、毎月開催される本部の運営会議で報告している。申し送りノートには、日々の伝達事項や利用者についての情報、修繕に対する要望などが記載されている。</p>	<p>環境整備を含めて、修繕の必要性を報告しているが実現に至っていない。職員全体での話し合いを深め、職員の総意として優先順位を設け、実現するための工夫が求められる。</p>
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の勤務状況を聞き取り、把握している。給与水準、労働時間などは、他事業所の状況も把握し決めている。各自がやりがいがもてるように毎月、事業所の目標を定めてもらい、自分たちで評価してもらい、聞き取りをしている。休憩の1時間はしっかり取れるように伝えている。 ・有休は2019年4月から5回以上の消化をしています。 ・夜勤者全員が年2回健康診断できるようにしている。 	<p>休憩時間は、2グループに分けて1時間確保できるように設定している。健康診断については、1回目の受診は終了している。夜勤者については3月までに終了予定である。日常的な業務について、管理者は職員個々の状況を確認しながら、就業環境の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・外部への研修等も受講の機会を設けている。 又、会社内でも合同勉強会を行っている。ミーティング時に勉強会も兼ねて行っている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市の連絡会に参加し交流を図る、困難事例や取り組み色々な話し合いをしサービスの質を向上させていく取り組みをしていた。 ・コロナが落ち着き次第交流を図って行きます。 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族の希望や要望、相談等を聞きだし安心を確保するために聞き取りを行っている。 聞き取った内容を元に、課題分析を行い、担当者会議に結び付けている、何でもはなしてもらるように、特に初回めんどんには、ゆっくりと話を聞くようにしている。 		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービスの利用についての相談があった場合は、家族に合せて家族が決めている事、困っていることを十分に聞き入れ、相談を受け、信頼関係作りに努めている。 ・利用者の日頃の状態、健康状態を報告し安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・聞き取った内容を踏まえ、必要とするサービスを細かく聞き取り、食事や入浴などの生活面から制度の活用やその時の心身の状況にあわせ、医療面に対してもフォローしながら利用も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家族的な雰囲気や一日を過ごし家事を一緒に暮らしを共にする関係を築いている。 ・共に笑い、共に楽しみ、お世話をしているとおもわず、させて頂いているという気持ちで利用者との関係作りをしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人の状況や思いをお伝えし、本人と家族の絆を大事にし共に支え合う関係である。何かあればできるだけ家族に報告し、本人にとって何が一番大切なのかを共に考えサービスにつなげている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今は、面会できない為、支援できなくなっています。コロナが落ち着き次第またしえんしていきます。	「つぼみ通信」を毎月発行し、家族や関係者に配布することで情報発信を行っている。入居前まで利用していた理容室を入居後も継続するために、家族と連携して支援を行った。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係の把握に努め一人一人が関わり合い支え合えるように支援している。 ・利用者の好きな事や、得意な事などの把握や毎日のレク活動など、毎日、利用者同士が関わりあえるようにしている。孤立しないようにリビングで過ごさせていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス利用終了後もこれからの関係を大切にしながら相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いを常に受け止め、可能な限り実現に向けて取り組んでいる。 ・外出先の希望や食べたいものの希望、季節の行事についての希望など取り入れた生活になるように工夫している。 ・外出支援では、マックのドライブスルーを利用し大好きなアイスクリームやポテト、天ぷらを買に行ったりする。	管理者が計画作成者を兼務している。把握した利用者個々の思いや意向を介護計画に反映し、日常的な支援に活用している。外出についての要望があり、月に1回はドライブに行く計画を策定している。外出先については、個々の要望を集約し、可能な範囲で実現している。行事についての要望は、7月の七夕祭りでソーメン流しを実施したり、利用者の誕生会にはケーキを用意して職員・利用者で祝っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・これまでの暮らし、生活を本人や家族に聴きとりし把握に努めている。 ・ミーティングにて職員が把握できるように話合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・本人の状況把握に務めるとともに申し送り等で現状を把握できるように努めている。 ・残存機能を活かした生活ができるように、職員は把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が発見された場合、それぞれの意見や話し合い、より良いケア確立に努めている。 ・ミーティングにて、利用者についてモニタリングを含めた話し合いを行っている。介護保険更新時は担当者会議を行い、家族さんの意見も伺っている。 	介護計画については、介護支援専門員である管理者が中心となって作成している。作成時には、「申し送りノート」や管理日誌・入居者記録等を活用し、課題抽出を行っている。。入居間もない方のアセスメントや定期的なモニタリング6カ月毎の担当者会等、管理者主導で実施され、職員の関与が確認できない面があった。	介護計画の作成モニタリングが、介護計画作成を兼務する管理者主導で実施されている。職員の意見を聴取し、介護計画を日々の業務で活用するための工夫が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・業務日誌や個別記録を用いて情報共有と課題発見見直しにいかしている。 ・毎日の日報を管理者が点検するとともに申し送りにて伝えている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスについて相談に応じ柔軟な支援が出来るように努めている。 ・病院受診など家族の対応が難しい事も多く、必要性の高い支援については特に早急に対応している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア実習生等積極的に受け入れ要請を行っていた。落ち着き次第また受け入れたいと思います。 ・自治会への働きかけを行い、協力してもらっている。 		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族の希望を大切に適切な医療が受けられるように努めている。本人の状態に応じて気になる点があればその都度、報告している。 ・現状報告書を用いて書面でのやり取りを行っている。 	4名の利用者は入居前のかかりつけ医を継続し、5名の方が事業所協力医へかかりつけ医を変えて通院しており、管理者が受診支援を行っている。利用者の通院の際は、専任の看護師が「現状報告書」を記入して家族へ預け、医師からのコメントをもらったり、口頭で状態を聞いて把握している。看護師は24時間のオンコール体制で適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ナースへ利用者の状態や気づき等を相談し何かあったらすぐに対応できるように受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時の看護サマリーや電話等で報告や相談をし情報交換を行う。退院時には、カンファレンスをお願いして、病気についての説明と、今後起こりうることや今後の注意等を聞き、サービスにつなげている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化に対する指針は家族に説明している。事業所としての方針を共有し家族を含めた話し合う場を設ける。 ・ターミナルケアについての家族の考えや思いをしっかりと聞き支援に取り組む。 ・H30年12月に看取り介護の支援を行いました。	契約時に重度化や終末期についての事業所の方針を「重度化した場合における(看取り)指針」を基に説明し「看取り介護についての同意書」を得ている。しばらく看取り介護の支援がないが、施設内研修や法人全体の勉強会で「看取り決定プロセスに関するガイドライン」など研修を積み実践力を身に付けている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・勉強会等で緊急時の対応や事故発生時の対応・応急手当の対応を行っている。 ・リスクマネジメントを含めたアセスメントの中から、利用者一人ひとりの起こりうる急変時のラインの確認も行っている。	緊急時連絡網が準備され、病院や管理者の連絡先が見やすい所へ貼られている。事業所独自の緊急時の目安となる「緊急対応ライン」が決められ、発熱38℃以上で血圧、バイタルチェックなど項目チェックを行い、速やかに初期対応や救急搬送を行えるよう、仕組みが作られている。法人全体で毎日、夜間緊急時の担当者が決められ、緊急時は出勤できる体制が作られている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	・コロナが落ち着き次第、地域との協力体制を築いていきたい。 ・防災訓練を年2回行っている。(避難先の周知)や災害や感染が出た時の緊急連絡先の周知を行っている。 会社全体で指針を整備している。	台風対策、地震対応、不審者等の対応、感染症対策マニュアルが各種準備されている。自然災害(BCP)についても「自然災害発生時における事業継続計画」として、事業所独自に整備し始め、役割分担表を作成している。避難訓練は、5/24に行われ、夜間想定は11/28に予定しているが、コロナ収束後の対応が遅れ、地域住民への協力依頼の体制が整っていない。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・理念に基づいた対応を全職員で心がけるように努めている。プライバシーに関する職員指導も行っている。会社全体の勉強会の他、マニュアルも参考にしている。	利用者、家族から入居の際に個人情報使用同意書を得ており、利用者の写真なども注意して掲載している。玄関先や施設内の壁に運営推進会議の議事録や重要事項説明書などが掲示されている。職員は、接遇マナーの研修会などに参加して言葉掛けに留意し、利用者の尊厳に配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の想いや希望をゆっくりと聞きとる時間を作り日常においても、本人がどうしたいのか、聞いてから行うよう心がけ反映出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の意向を確認し希望にそって支援するように努めている。 ・入浴等、拒否がある場合には時間がたってから再度声掛けするなどしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時や入浴後その人らしい身だしなみが出るように支援している。外出支援で美容室を利用されていたが今は、希望があれば職員で散髪を行っている。コロナが落ち着き次第、美容室を利用され、おしゃれができるように支援したい。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の食べたいものなどを聞いて、メニューに取り入れている。 ・利用者が昼食の準備の手伝いや後片付けなどできる利用者は行っている。	3食職員の手作りの温かい食事を準備している。メニューも職員が考え、2、3日に1回担当の職員が買い出し、健康を考えにんにくとしょうがを多めに入れた家庭料理を調理、完食される方が多い。以前は、朝食にパンも準備していたが、利用者の希望で現在はご飯に切替えるなど対応している。敷地内にあるバナナを収穫しておやつにしたり、お隣りへ差し上げている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスを考えた献立が作られている。食事や水分摂取、排泄のチェックも行い健康状態の維持に努めている。 ・主治医からの指示を守った食事を提供し野菜ジュース、ヨーグルトにオリゴ糖を加えた食事を提供している。 ・ポカリスエット等で水分補給を行っている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、本人の力に応じた口腔ケアをしている。 ・歩ける方は、洗面台に行き歯磨きを行っている。歩けない方は、テーブルに洗面器、歯ブラシ、コップを用意している。どちらの場合も職員が介助している。 		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの排泄パターンを把握しなるべく自立に向けた支援を行っている。 ・排泄チェック表により、排泄リズムを作れるようにしている。 	男女共用のトイレが3か所あり、排泄チェック表を基に自立に向け支援を行い、日中は8名の利用者がトイレで排泄をされ、おむつの利用者は1名のみで、尿路結石治療後の尿バッグの方の支援も行っている。手すりが設置され、車椅子の利用者、職員の負担も軽減されているが、トイレ2か所はドアが破損のため取り外されカーテンのみとなっており、早めの修理を希望する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェックを行い便秘の方への食材や飲み物等工夫している。 ・便秘気味の方もいるので便秘薬の調整なども行っている(主治医と相談しながら) 		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴への声かけを行いなるべく本人の希望に沿って支援を行っている。 	脱衣所は、ヒートショック対策も考えて、ヒーターが準備されている。現在、浴槽は取り外し、シャワー浴のみとなっているが、希望があれば設置できるように準備され、できるだけ本人の希望に沿った入浴支援を行っている。脱衣所、浴室どちらも十分な広さが確保されているが、環境整備が整わず漂白剤などが床に置かれている様子があった。	浴室、脱衣所など利用者の出入りする場所での洗剤や漂白剤の保管については、十分に留意し、手の届かない所へ収納するなど安全が確保できるよう期待する。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人の生活習慣、時間帯によって声かけを行い休憩、安眠出来るように支援している。 昼夜逆転しないように昼間の活動が出来るように支援している。 		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 服薬の内容確認をナースに聞きながら行っている。又、職員も利用者の誰が何の薬を飲んでいるかも把握できるようにしている。 誤薬が起きないように二重チェックも行っている。 誤薬した時は、ナースへ報告して対応している。 	看護師が管理して1か月分の薬を受取り、1週間分へ移動、1日分と朝の分を夜勤者が準備する一連の服薬の流れが整っている。薬情は看護師が管理しているが、変更があった場合は、朝夕の申し送り時に口頭や申し送りノートへも記入し共有している。今年の6/30に昼の薬を誤って朝、与薬してしまった事故があり大事には至らなかったが、その後ダブルチェックをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生活歴や残存機能を活かすように努め趣味活動や家事等の支援を行っている。 日頃から利用者様とコミュニケーションを取る事を心がけ役割や楽しみを見つけるように支援している。 		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望に応じて、美容室や外出を楽しんでいる。 職員が出来ない時は家族さんへ依頼している。 	住宅街で交通量が少ないため、朝夕と散歩を希望される利用者に寄り添って、ご近所を散歩したり、コロナ禍で自粛していた美容室への外出を楽しんでいる方もいる。同一法人の施設よりキャラバン車を借りて毎月1、2回ドライブで瀬長島などへ外出している。ドライブが難しい利用者は、車椅子で玄関先やウッドデッキでの外気浴が出来るように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 自分が管理できない方の金銭管理は御家族さんが行っている。 少しのお金を持っていたい方は職員が管理しながら、本人が安心できるようにしている。 御自分で出来る方は、本人の意思を大切にしながらお金を使ってもらっている。 		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に合わせて、その都度できるように支援している ・本人が家族に連絡を取りたいときに、電話をしたり、気持ちを伝えたり出来るように支援している。 		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂やリビングルーム、居室で本人が思い思いに過ごしている。 ・テレビを見たり、新聞を見たり、読書を楽しんでいる。コミュニケーションも楽しんでいる。 ・季節感も取り入れるようにしている。 	玄関ドアは、日中開け放され明るく風通しが良い、現在は利用されていないが地域交流室も食堂のすぐ側にある。中央に台所があり、奥のリビングでは、ソファの好みの場所で利用者が大型テレビの時代劇や大相撲を楽しんでいた。冷蔵庫に「安全の為にリスト」が貼られ職員は、毎週金曜日に除菌スプレーの残量や温湿度の管理など、12項目のチェックを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングルームでの座席の配置は概ね決めているが、自由にしている。 ・居室へ戻りたいときは自分の意志で戻れるようになっている。 ・自分の部屋を忘れた方は、その都度教えている 		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が使い慣れた物や好みの物を活かして活用している。 ・タンスなど本人が持ってきたものを使ってもらっている、家族さんに本人の思い出等大切な物を持ってきてもらっている。 	居室は、ベット、エアコン、造り付けの大型の収納があり、窓を開け、入口の引き戸を開けることで、適度な風通しで換気をしている。「各部屋のチェックリスト」が作られ、毎日職員は、居室内の点検を行う際の目安にしている。ほとんどの利用者がリビングで寛いでいるが、居室で新聞や本を持ち込んで読んでいたりラジオを持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴室などは滑り防止マットなどを使用してスリップしないように工夫している。 ・キッチンも危険な物は利用者が届かない位置に置いている。 		